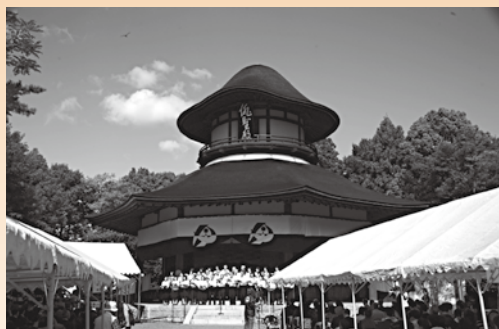


平成19年度 (第61回) 芭蕉祭



俳聖松尾芭蕉の業績をたたえ遺徳を偲ぶ「平成19年度(第61回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに行われた式典では、「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。今年の特選句は、全国各地および世界各国から一般の部に1万1828句、チームの部に1864句、児童・生徒の部に2万6822句、連句俳句に190巻、英語俳句の部に日本を含む20カ国から741句の応募がありました。各部門の特選句と一般の部で入選された市内の方の句を紹介いたします。

一般の部 特選

有馬朗人 選

夜濯の叩き棒とは知らざりき
西瓜載せ瀧江に躍る竹筏

稲畑汀子 選

どくだみの句は祖母の匂ひとも
蝦夷春蟬今年の命尽きし森

茨木和生 選

産屋にも祝詞のどくく大原志
寺の鐘までも撞きある出水かな

宇多喜代子 選

峽の田の早苗の水の真つ新なる
寒垢離の寂光放つ谷の中

岡崎光魚 選

肱欠く仁王に別れ鷹のこゑ
初暦表紙を破る音高く

鍵和田柚子 選

國盗りの世のまなこもつ荒鶉かな
大き手に隠るる湯呑み秋祭

金子兜太 選

地の涯の鰐をそこに鮭番屋
父と母競泳せし海雁帰る

倉田紘文 選

真清水の発心彫む磨崖仏
生国の世界遺産の山眠る

塩田菽柑子 選

農政の歪みをよそに稲の秋
草枕蕉翁偲ぶ里しぐれ

西村和子 選

とんぼうの翅のはがねに変わるとき
金魚に餌やり絵付場に戻りけり

長谷川權 選

病少し良しとて落ちし花を掃く
大あくびしてみどり子はばらに覚め

星野椿 選

あばれ馬なだめ祭の整ひぬ

愛知県名古屋市長 加藤利尾

千葉県千葉市 吉野櫻月

宮城県仙台市 小島左京

北海道室蘭市 山本晃裕

京都府亀岡市 井上 實

奈良県御所市 上村佳与

滋賀県大津市 篠原紀代子

長野県長野市 渡辺忠男

伊賀市三田 西田 誠

愛知県常滑市 吉田ひろし

三重県志摩市 廣波青

東京都文京区 大久保 昇

北海道北広島市 水口 茂

北海道登別市 鈴木美子

大分県玖珠郡 麻生良昭

青森県西津軽郡 菊池シユン

伊賀市玉滝 川波美喜子

埼玉県ふじみ野市 三瓶政喜

大阪府大阪市 中野のはら

愛知県西尾市 齋藤佳織

京都府長岡京市 太田芳男

岐阜県高山市 打保好子

児童・生徒の部 特選

幼稚園並びに保育園および小学校一〜三年

谷本昌子・西田誠 浜地和恵・藤井充子・山村勝子 共選(五十首順)

なきこえてせみのなまえをあててみる 中瀬城東保育園とよだしょうき

あまのがわおさかなつりもできるかな 友生保育園 松田紗弥

きゅうりのつるビヨーンビヨーンバナメたい みどり第二保育園 くすはらときお

ろうそくもいちごもなつたんじょうび 上野西小一年 よしのなつほ

ひまわりがうえからぼくをながめてる 新居小一年 すずきたいき

いつのひかいるかのようにおよぎたい 上野東小一年 だけやまかなえ

ランプのひいっせいにともるよキャンブじょう 猪田小二年 今いあかる

クワガタががいとめざし体あたり 鳥取県八頭町大江小二年 林ゆうや

すぐよこに見えてもとおいふじとぎん 新居小二年 のよりしょうこ

正ざしてクローラーの中習字書く 上野西小三年 さじあかり

バーベキューのこり火つかって花火する 府中小三年 谷本もも花

おぼんにはいつもとちがうそなえもの 玉滝小三年 谷本しょうた

小学校四〜六年

永井みよ・東構東子・福山良子・喜多富美・横田綜市共選(五十首順)

ベランダに潮の香りのうきわほす 丸柱小四年 渡邊千愛美

音読の教室ばらの香がとどく 氷見市海峰小四年 浜野由架里

はたるたち光の線路を作ってる 花之木小四年 法花拓海

待合室葉の匂いとせみの声 上野西小五年 国分美歩

運動会ころんでもまたさわやかに 秋田県八峰町埴川小五年 金平美穂

夏の昼おくれた時計正してる 猪田小五年 福岡蒼生

おし入れで去年の花火さがす父 府中小六年 松山真吾

夕立の風が強くてうずをまく 大山田小六年 浦川 彩

辞典ひいて空らんうめる夏休み 友生小六年 岩瀬莉緒

中学校および高等学校

川浪玲子・北村保・北村みち・佐々木経子・葭葉悦子 共選(五十首順)

海岸のすみでみつけた夏の夢 名張市北中一年 稲荷正大

歯の手術ますいのさめてせみしぐれ 崇広中一年 小阪行弘

天の川に手が届きそう父の里 崇広中一年 野村彩美

サイダーのびん突きぬける陽射しかな 山形市山寺中二年 柏倉直史

月下美人祖母が無言でスケッチする 崇広中二年 島崎結依

高原の自然の風に汗忘れ 崇広中二年 安井朱理

白玉の白さに負けじと素直なる 安城市安城西中三年 今井悠梨

白靴でむねをおどらせ沖繩へ 直方市直方第一中三年 豊島百合奈

連句の部 特選

磯直道・岡本耕史・品川鈴子・宮下太郎
共選（五十首順）

▼半歌仙『夏木立』の巻

東京都 服部秋扇 阿部弘子 両吟
先たのむ椎の木もあり夏木立 芭蕉翁

光の隙を翡翠の飛ぶ 服部秋扇

准教授採点の目を休ませて 阿部弘子

手帳に挿む指紋標本 扇

ふらすこの底に三日月透きとほる 弘

こほろぎすだくオルガンの裏 扇

ハロウィーン箒に魔法の粉かけて 弘

異界を覗く赤い洋燈 扇

喉は燃え落ちゆく酒の口うつし 弘

雌蕊雄蕊をひらく牡丹 扇

風呂敷で器用につつむヴィーナス像 扇

身代金は百億と言ひ 弘

月芽えて海底の鐘鳴りひびく 扇

奔馬なだめるかせひきの御者 弘

笈ひとつ杖突坂をゆるゆると 扇

賛を添へたる淡彩の筆 弘

垣根から垣根へ花の詩流れ 扇

くノ一走るあとは陽炎 弘

平成十九年六月二十九日 満尾
フアクシミリ

一般の部 入選 (伊賀市)

有馬朗人 選

葛城の記紀の世よりの棚田植う 木興町 森井章恵

稲畑汀子 選

ものの芽の凡そ醜草名も知らず 緑ヶ丘西町 水島三造

一房は仏に供へ葡萄食ぶ 上野丸之内 藤井充子

田楽屋伊賀の老舗として聞こえ 平田 中森皎月

大いなる未来を抱き牡丹の芽 山畑 北村みち

山の子の露被り来る日照雨かな 青森県弘前市 石沢とき穂

皆川盤水 選 山形県天童市 石原童子

風を聞き月に遊びて翁の忌 福岡県北九州市 松尾信也

矢車のきらめく方に帰港せむ 宮田正和 選 伊賀市柘植町 松尾紀子

村の子は五人となりし夏休み 伊賀市猪田 前川延代

自づからなる滝道の石まろし 森澄雄 選 伊賀市猪田 前川延代

土間長き芭蕉の生家つづれさせ 奈良県奈良市 下山永見子

蓑虫庵秋のしぐれを縁に座し 兵庫県姫路市 小坂佐紀子

門司へ打ち馬関へ打てる火花かな 森田峠 選 広島県広島市 住田祐嗣

山小屋の灯さへ見えざり霧襖 兵庫県川辺郡 富岡美根

【テーマの部】 片山由美子 選 宮城県仙台市 小島左京

アルバムに残る生家や桐の花 埼玉県鳩ヶ谷市 豊田トヨ子

虫干や里も婚家も同じ紋 宇多喜代子 選 上野車坂町 森岡了子

寄せ墓の兵の碑を読む夏帽子 岡崎光魚 選 上野玄蕃町 横田信子

耳冷えて来るや一番螢とぶ 伊賀の冬火のみに干せる牛の藁 上野玄蕃町 橋本 良

蜘蛛の子の散りて釈尊修業の図 緑ヶ丘本町 和田美代子

優曇華や佐渡に流人の能舞台 緑ヶ丘本町 中森文字

戯面を見しその夜蜜の火を浴びぬ 西明寺 永井みよ

人去りて花野は天へつづきけり 朝屋 増井奈美

今日のせみ昨日のせみとまた違い 丸山中三年 辻本理恵
配達の夏の朝日が目にしみる 名張市名張高定時制四年 近藤 剛



山宿の一縷の瀬音夕涼し 上野西大手町 山村勝子

あめんぼに雨の水輪の浄土かな 西明寺 永井みよ

塩田菰柑子 選 年金の目減りに減入る梅雨暗し 岩倉 平野かのえ

二胡の音に哀愁沁みる月見月 古郡 広岡こよし

倒壊の家屋に激し梅雨出水 長田 谷出里和

城郭に静けさ戻る余花の雨 阿山ハイツ 山森貞子

西村和子 選 ふるさとの風よく通る籠枕 上野桑町 石原京子

沙羅の花雨の昏さのまま暮れて 緑ヶ丘南町 松本ちい

長谷川權 選 節分や共に年とる人と鬼 上野西大手町 藤下恒星

竹伐つて鉄砲かつきに僧下り来 木興町 森井章恵

この先は猿滑坂玉の汗 奥馬野 馬岡裕子

蓮の花親鸞聖人配流の図 上野丸之内 藤井充子

時の鐘百戸涼しく暮れにけり 山畑 寺尾 照

五月雨や熊野山々墨絵めく 緑ヶ丘中町 小川律子